

Q-A



Q-C



Q-E②



連理木 (れんりぼく、れんりぎ) とは、2本の樹木の枝、あるいは1本の樹木の一旦分かれた枝が癒着結合したものである。自然界においては少なからず見られるが、一つの枝が他の枝と連なって理(木目)が通じた様が吉兆とされ、「縁結び」「夫婦和合」などの象徴として信仰の対象ともなっている。

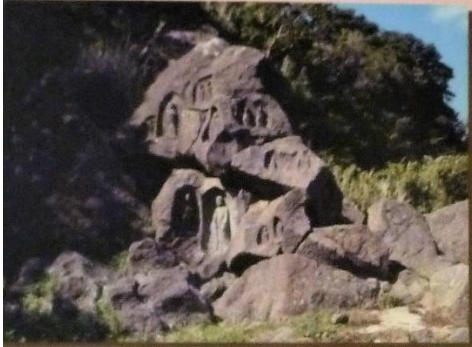
Q-E③



Q-F①



Q-F②



石仏群 見て歩き 国重文 元箱根磨崖仏③
二十五菩薩

北側の地下通路付近の大きな岩盤に、小さな仏像がまとめていくつも彫られています。その内訳は、地藏菩薩がもつとも多く24体、その他に、供養菩薩が1体で、阿彌陀如来が1体の計26体にのほります。中心と思われる地藏菩薩の横には、永仁元年（1293）の銘がありますが、造りの違いからおそらく一度にできたのではなく、順次奉納されたと考えられます。

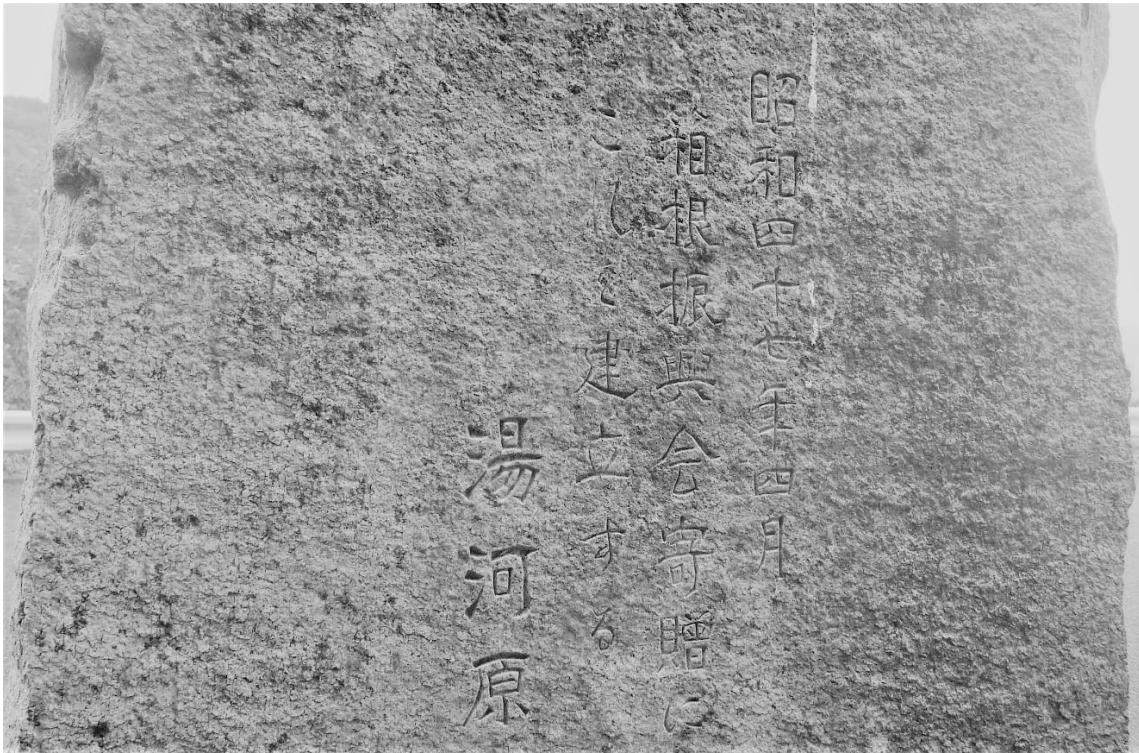
「二十五菩薩」とは、本来阿彌陀如来の来迎に付き従う二十五名の菩薩のことで、その中には地藏菩薩は含まれません。しかし、全部で26体あることから、二十五菩薩になぞらえて呼ばれるようになったのでしよう。

Q-G





Q-X①



Q-X②



Q-X③



Q-X④

